

■羽田盃（SI）アラカルト（過去全 66 回の分析）

※第 1 回（昭和 31 年）から第 8 回（昭和 38 年）までは「大井杯競走」の名称で実施

※第 1 回（昭和 31 年）から第 11 回（昭和 41 年）までは 1,800m で実施

※第 12 回（昭和 42 年）から第 40 回（平成 7 年）までは 2,000m で実施

※第 41 回（平成 8 年）から第 43 回（平成 10 年）までは 1,800m で実施

※第 44 回（平成 11 年）から第 46 回（平成 13 年）までは 1,600m で実施

※第 47 回（平成 14 年）から第 48 回（平成 15 年）までは 1,790m で実施

※第 19 回（昭和 49 年）、第 57 回（平成 24 年）は 2 頭が 3 着同着

※記録は令和 4 年 4 月 28 日時点

■2 番人気以内の馬は堅実

単勝 1 番人気馬は 30 勝、2 着 8 回、3 着 6 回で、3 着内率が 66.7%、単勝 2 番人気馬は 24 勝、2 着 18 回、3 着 7 回で、3 着内率が 74.2%、単勝 3 番人気馬は 3 勝、2 着 14 回、3 着 16 回で、3 着内率が 50.0% となっている。上位人気に推された馬、特に単勝 1～2 番人気馬の活躍が目立つレースだ。

■ちょうど半数の回で 3 番人気以内の 2 頭がワンツー

過去 66 回のうち 57 回は、単勝 3 番人気以内の馬が勝利を収めている。また、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツーフィニッシュ決着は 33 回、単勝 3 番人気以内の馬によるワンツースリーフィニッシュ決着は 15 回ある。

■“無敗”で優勝を果たした馬は 6 頭

2 着以下に敗れた経験がない馬の優勝例は、第 27 回（昭和 57 年）のホスピタリティ（7 戰 7 勝）、第 32 回（昭和 62 年）のシナノデービス（4 戰 4 勝）、第 38 回（平成 5 年）のブルーフアミリー（6 戰 6 勝）、第 42 回（平成 9 年）のキャニオンロマン（4 戰 4 勝）、第 45 回（平成 12 年）のイエローパワー（3 戰 3 勝）、第 46 回（平成 13 年）のトーシンブリザード（4 戰 4 勝）と、これまでに 6 回ある。

■ 牝馬は 5 勝、外国産馬は 1 勝

牝馬の優勝例は、第 4 回（昭和 34 年）のハリセキト、第 26 回（昭和 56 年）のコーナンルビー、第 34 回（平成元年）のロジータ、第 37 回（平成 4 年）のカシワズプリンセス、第 56 回（平成 23 年）のクラーベセクレタと、これまでに 5 回ある。なお、外国産馬の優勝例は、第 50 回（平成 17 年）のシーチャリオットのみだ。

■ 的場文男騎手は歴代最多勝まであと 1 勝

騎手別の勝利数を見ると、7 勝の赤間清松騎手が単独トップ。的場文男騎手が 6 勝で単独 2 位、石崎隆之騎手が 4 勝で単独 3 位となっている。

■ 調教師別の歴代最多勝記録は「7」

調教師別の勝利数を見ると、出川己代造調教師が 7 勝で単独トップ、川島正行調教師が 4 勝で単独 2 位、竹内美喜男調教師、矢野義幸調教師が 3 勝で 3 位タイとなっている。

■ 3 枠ほか中心寄りの枠番が優勢

枠番別勝利数を見ると、3 枠（16 勝）が単独トップ。5 枠（11 勝）が単独 2 位、6 枠（10 勝）が単独 3 位となっている。また、馬番別勝利数を見ると、3 番（10 勝）が単独トップ。4 番（7 勝）が単独 2 位、7 番、9 番、10 番（各 6 勝）が 3 位タイだ。なお、未勝利の馬番はないが、2 番、13 番、14 番、15 番、16 番はそれぞれ 1 勝ずつにとどまっている。